

**SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/  
M8000/M9000 サーバ**

プロダクトノート (XCP 1101 版)



Part No.: E21918-02  
2011 年 4 月

Copyright © 2011 富士通株式会社 All rights reserved.

本書には、オラクル社および / またはその関連会社により提供および修正された技術情報が含まれています。

オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、オラクル社および富士通株式会社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者からオラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、オラクル社および / またはその関連会社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Oracle and/or its affiliates and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.



免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関してオラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論もとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。



# 目次

---

はじめに ix

## 1. 概要 1

ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性マトリクス 2

Oracle Solaris パッチの入手方法 3

互換性のあるウェブブラウザ 4

## 2. XCP 1101 ファームウェアに関する情報 5

このリリースの新機能 5

XCP のアップグレードおよびダウングレード 6

このリリースへのアップグレード 6

OpenBoot PROM ファームウェアのアップデード 6

XCP 1050 より前のバージョンからのアップグレード 6

特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動 7

XCP ファームウェアのダウングレード 7

XCP の機能の問題と制限事項 7

XCP の既知の問題 (CR) と回避方法 9

## 3. ソフトウェアに関する情報 11

Capacity on Demand (COD) 11

COD に関する変更 11

リモート初期ログイン	12
障害管理	12
システムの縮退メモリの識別	13
▼ システムの縮退メモリを識別するには	13
Sun Java Enterprise System	14
XSCF Web コンソール SMF サービスの有効化	14
▼ XSCF Web コンソール SMF サービスを有効にするには	14
ソフトウェアの機能の問題と制限事項	15
Oracle Solaris OS に関する問題 (CR) と回避方法	16
サポートされているすべての Oracle Solaris リリースに関する既知の問題	16
CR 6660168	19
Oracle Solaris 10 9/10 で修正された問題	20
Oracle Solaris 10 10/09 で修正された問題	21
Oracle Solaris 10 5/09 で修正された問題	23
Oracle Solaris 10 10/08 で修正された問題	24
Oracle Solaris 10 5/08 で修正された問題	28
Oracle Solaris 10 8/07 で修正された問題	32
ソフトウェアドキュメントの変更予定	37
<b>4. ハードウェアに関する情報</b>	<b>39</b>
特記事項、問題、および回避方法 – M シリーズサーバすべて	39
WAN ブートサーバからのブート	39
単一の J4200 JBOD ストレージレイからの複数のシステムのブート	40
USB メモリを使用する場合の注意	40
ハードウェアの機能の問題と制限事項	41
特記事項、問題、および回避方法 – M3000 サーバのみ	41
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	41
ハードウェアの機能の問題と制限事項	41

特記事項、問題、および回避方法 – M4000/M5000 サーバおよび M8000/M9000 サーバのみ	42
DVD ドライブと cfgadm	42
F20 PCIe カード	42
Sun Crypto Accelerator 6000 カード	43
U320 PCIe SCSI カード	43
QLogic PCIe カードのパッチ	43
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	43
ハードウェアの機能の問題と制限事項	44
M3000 サーバのハードウェアドキュメントの変更予定	45
M4000/M5000 サーバのハードウェアドキュメントの変更予定	45
M8000/M9000 サーバのハードウェアドキュメントの変更予定	45





# はじめに

---

このプロダクトノートには、オラクルと富士通が提供する SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ（M シリーズサーバと呼ばれることもあります）に関する重要な最新情報が記載されています。このプロダクトノートは、XCP 1101 ファームウェアリリースに関連するハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア、およびドキュメントを対象としています。

本体装置およびドキュメントの名称は、読みやすさを考慮して略称で言及していることがあります。たとえば、「M9000 サーバ」への言及があった場合、完全な製品名は「SPARC Enterprise M9000 サーバ」であることに注意してください。『XSCF リファレンスマニュアル』への言及があった場合、完全なドキュメント名は『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』になります。

このドキュメントに加えて、少なくとも、ご使用の本体装置の『製品概要』、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ アドミニストレーションガイド』、および『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』もお読みください。

このドキュメントの発行時点では、M シリーズサーバの出荷時に XCP 1101 ファームウェアがサポートまたはインストールされています。ただし、このバージョンがすでに入手可能な最新バージョンではなくなっている場合、またはインストールされているバージョンではない場合もあります。ご使用の本体装置のファームウェアを対象とするプロダクトノート、および最新のファームウェアリリースを対象とするプロダクトノートを必ず参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「対象読者」 (P.x)
- 「関連ドキュメント」 (P.x)
- 「表記規則」 (P.xii)
- 「コマンドラインインターフェース (CLI) の構文」 (P.xiii)
- 「ドキュメントへのご意見」 (P.xiii)

---

## 対象読者

このドキュメントは、コンピュータネットワークに関する十分な知識と共に、Oracle Solaris オペレーティングシステム (Oracle Solaris OS) に関する高度な知識を持つ熟練したシステム管理者を対象として記述されています。

---

## 関連ドキュメント

下記の表に、M シリーズの関連ドキュメントを示します。これらのドキュメントは、次の URL からオンラインで参照することができます。

ハードウェアドキュメント:

M3000 サーバ:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19867-01&id=homepage>

M4000 サーバ:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19855-01&id=homepage>

M5000 サーバ:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19580-01&id=homepage>

M8000 サーバ:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19170-01&id=homepage>

M9000 サーバ:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19415-01&id=homepage>

ソフトウェアドキュメント:

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sparc-mseries-servers-252709.html>

Oracle Solaris オペレーティングシステムのドキュメント:

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/index.html>

---

### M シリーズサーバの関連ドキュメント

『SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画マニュアル』

『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ 設置計画マニュアル』

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル』

『SPARC Enterprise 19 インチラック搭載ガイド』

---

---

## M シリーズサーバの関連ドキュメント

---

- 『SPARC Enterprise M3000 サーバ はじめにお読みください』\*
  - 『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ はじめにお読みください』\*
  - 『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ はじめにお読みください』\*
  - 『SPARC Enterprise M3000 サーバ 製品概要』
  - 『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ 製品概要』
  - 『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 製品概要』
  - 『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 Servers Important Legal and Safety Information』\*
  - 『SPARC Enterprise M3000 Server Safety and Compliance Guide / 安全に使用していただくために』
  - 『SPARC Enterprise M4000/M5000 Servers Safety and Compliance Guide / 安全に使用していただくために』
  - 『SPARC Enterprise M8000/M9000 Servers Safety and Compliance Guide / 安全に使用していただくために』
  - 『External I/O Expansion Unit Safety and Compliance Guide / 安全に使用していただくために』
  - 『SPARC Enterprise M4000 Server Unpacking Guide / 開梱の手引き』\*
  - 『SPARC Enterprise M5000 Server Unpacking Guide / 開梱の手引き』\*
  - 『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 開梱の手引き』\*
  - 『SPARC Enterprise M3000 サーバ インストレーションガイド』
  - 『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ インストレーションガイド』
  - 『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ インストレーションガイド』
  - 『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』
  - 『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル』
  - 『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル』
  - 『PCI ボックスインストレーション ・ サービスマニュアル』
  - 『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ アドミニストレーションガイド』
  - 『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』
  - 『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』
  - 『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーズガイド』
  - 『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ Capacity on Demand (COD) ユーザーズガイド』
  - 『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ プロダクトノート』†
  - 『SPARC Enterprise M3000 サーバ プロダクトノート』
  - 『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ プロダクトノート』
-

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート』

『PCI ボックス プロダクトノート』

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ 用語集』

---

\* 印刷版ドキュメントです。

† XCP 1100 リリース以降です。

---

## 表記規則

このマニュアルでは、特定の種類の情報を表すために次のフォントおよび記号を使用しています。

フォントまたは記号	意味	例
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する内容（画面に表示されるコンピュータの出力と区別）。 このフォントは、枠で囲まれたコマンド入力の例を表しています。	XSCF> <b>adduser jsmith</b>
AaBbCc123	コマンド、ファイル、ディレクトリの名前。画面に表示されるコンピュータの出力。 このフォントは、枠で囲まれたコマンド出力の例を表しています。	XSCF> <b>showuser -P</b> User Name: jsmith Privileges: useradm auditadm
『』	参照するマニュアルの名称を示します。	『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	章、項、項目、ボタン、またはメニューの名前を示します。	第 2 章「システムの機能」を参照してください。

---

---

## コマンドラインインターフェース (CLI) の構文

コマンドの構文は、次のとおりです。

- 値の入力が必須となる変数は、斜体で記述しています。
- 省略可能な要素は [ ] で囲んでいます。
- 省略可能なキーワードの場合、オプションの集合は [ ] で囲み、それぞれのオプションを | で区切っています。

---

## ドキュメントへのご意見

本書に関するご意見、ご要望がございましたら、次の URL からお問い合わせください。

<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/ask/index.html>



# 第 1 章

---

## 概要

---

このドキュメントでは、M シリーズ (M3000/M4000/M5000/M8000/M9000) サーバでサポートされる XCP 1101 ファームウェアリリースについて説明します。特に明記しない限り、このドキュメントの情報はこれらすべての本体装置に適用されます。

ここでは、このファームウェアリリースの時点でファームウェア、ハードウェア、およびソフトウェアに適用される重要な情報を示します。その他の項では、ファームウェア、ソフトウェア、またはハードウェアに固有の問題について説明します。

---

**注** - オラクルは、XCP 1100 など通常ファームウェアリリースに関するプロダクトノートを発行します (ただし、XCP 1101 など一部のアップデートを除きます)。最新の利用可能なファームウェアおよび関連する README ファイルがあるかどうか、オラクルのファームウェアダウンロードサイトを常に確認してください。

---

プロダクトノートは更新の頻度が高いため、通常、プロダクトノートに記載されている内容はその他の製品ドキュメントの内容よりも優先されます。ただし、内容に矛盾がある場合は、各ドキュメントのタイトルページにある発行日を比較してください。

---

# ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性マトリクス

SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ、プロセッサ、およびソフトウェアの要件マトリクスを次の URL で確認してください。

<https://supporthtml.oracle.com/ep/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1145383.1>

このマトリクスでは、サポートされるハードウェア、ファームウェア、およびオペレーティングシステム (OS) のバージョンと共に、必須となるソフトウェアパッチを示します。パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。各パッチの 2 桁のサフィックスは、パッチの最小リリースレベルを表しています。最新パッチリリースがあるかどうか、<http://myoraclesupport.com> を確認してください。パッチは、記載されている順序で適用します。



---

**注意** - SPARC64 VII+ プロセッサなどのプロセッサを取り付ける場合は、ご使用の本体装置がそのプロセッサタイプのすべての要件を満たしていることを事前に確認してください。このような要件には、必須となる XCP ファームウェアおよび Oracle Solaris OS の最小バージョン、およびすべての必須パッチが含まれます。

---



---

# Oracle Solaris パッチの入手方法

Oracle Sun Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の URL にある『Sun Update Connection System Administration Guide』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれていません。

システムを登録し、Oracle Sun Connection Update Manager を使用して最新の Oracle Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- Update Manager GUI を使用してパッチを入手する。詳細については、上記のリンクにある Sun Update Connection のドキュメントを参照してください。
- smpatch(1M) コマンドを使用してパッチを入手する。詳細については、smpatch(1M) のマニュアルページまたはご使用の Oracle Solaris OS バージョンの一連のリファレンスマニュアルを参照してください。



---

**注意** - Oracle Solaris 10 11/06 OS を実行する SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの場合、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、<http://myoraclesupport.com> からダウンロードできます。Oracle Solaris 10 11/06 では、SPARC64 VII プロセッサがサポートされないことに注意してください。

---

---

## 互換性のあるウェブブラウザ

XSCF Web は、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Web の動作することが確認されているウェブブラウザは、[表 1-1](#) のとおりです。

**表 1-1** 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Mozilla Firefox	3.0 および 3.5.9
Microsoft Internet Explorer	7.0 および 8.0

## 第 2 章

---

# XCP 1101 ファームウェアに関する 情報

---

ここでは、本リリースの XCP ファームウェアへのアップデート、およびその他の主な変更内容について説明します。

[「ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性マトリクス」\(P.2\)](#) も参照してください。

---

**注** - このリリースは、XCP 1100 ファームウェアのアップデートです。XCP 1100 リリースの詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ プロダクトノート (XCP 1100 版)』を参照してください。

---

---

## このリリースの新機能

- XCP 1101 ファームウェアは、2.86 GHz プロセッサ搭載の M3000 サーバをサポートするようになりました。
- この XCP 1101 リリースでは、新しい Capacity on Demand (COD) 許諾配布システムのサポートが実装されます。[「Capacity on Demand \(COD\)」\(P.11\)](#) を参照してください。

---

# XCP のアップグレードおよびダウングレード

## このリリースへのアップグレード

ファームウェアのアップグレードについては、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

---

**注** - XCP ファームウェアのアップグレード後は、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットしてください。

---

## OpenBoot PROM ファームウェアのアップデード

対象のドメインで OpenBoot PROM (OBP) ファームウェアのアップデートを完了するには、アップデート完了後、可能な限り速やかにドメインを再起動します。

## XCP 1050 より前のバージョンからのアップグレード

XCP 1050 より前のバージョンを現在実行している場合は、この XCP リリースに直接アップグレードできません。まず中間バージョンである 1050 ~ 1070 (1050 および 1070 を含む) の XCP にアップグレードします。以前の XCP リリースの入手については、Oracle 社担当員にお問い合わせください。

---

**注** - `admin` という名前のアカウントがある場合は、XCP 1050 以降にアップデートする前に、`deleteuser(8)` コマンドを使用してそれらのアカウントを削除します。`admin` アカウント名は、XCP 1050 以降で予約されています。

---

## 特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動

XCP バージョン 1050 ~ 1070 (1050 および 1070 を含む) からのアップデートの間、動作中であったドメインでは、Dynamic Reconfiguration (DR) を実行して SPARC64 VII プロセッサを追加または交換する場合、OpenBoot PROM ファームウェアをアップデートする必要があります。OpenBoot PROM ファームウェアは、XCP をアップデートし、ドメインを再起動するとアップデートされます。このため、SPARC64 VII プロセッサを追加したか交換したかにかかわらず、ファームウェアを最新の XCP リリースにアップデートした後は、すべてのドメインを再起動します。

## XCP ファームウェアのダウングレード

XCP ファームウェアを以前のリリースにダウングレードすると、最新リリースで改善および変更された内容が削除され、依存関係の不一致によるシステム障害が発生する可能性があります。ただし、XCP リリースのダウングレードが必要になった場合は、実施後に次のコマンドを実行して、以前の形式の監査ログを消去してください。

```
XSCF> restoredefaults -c xscfu
```

---

## XCP の機能の問題と制限事項

この項では、XCP ファームウェアの既知の問題について説明します。

---

**注** - Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については、Sun BluePrints のドキュメント『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』(<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。

---

表 2-1 XCP の機能の問題と制限事項

M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	問題
○	○	○	次の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、proxyuser、root、rpc、rpcuser、および sshd。「リモート初期ログイン」(P.12) を参照してください。
○	○	○	XSCF ユーザーアカウントのユーザー名は、LDAP ユーザー名と同一にすることはできません。また、XSCF ユーザーアカウント番号 (UID) を LDAP UID 番号と同一にすることはできません。
○	○	○	XSCF を使用して XCP をインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に Web session ID error が表示されることがあります。また、Autologout 設定でタイムアウト時間を 30 分以上で指定すると、Internal Server Error が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Web に接続し直してください。
○	○	○	XSCF Web を使用する前に、ポップアップブロック設定を無効にし、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合はプラグインを削除してください。
○	○	○	XSCF-LAN はオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LAN と接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LAN と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE 802.3 の規約によって、XSCF-LAN は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。
	○	○	この XCP リリースの場合、XSCF ブラウザユーザーインターフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。
	○	○	DR および ZFS ファイルシステムは相互運用性に問題があるため、M4000/M5000 サーバは、UFS ファイルシステムを使用してプレインストールされ、出荷されています。表 3-2 の CR 6522017 を参照してください。
○	○	○	XCP 1093 リリースは、プロセッサグループ観測機能を有効にした Oracle Solaris 10 9/10 を実行しているドメインがサポートされる最初の XCP リリースです。詳細については、Oracle Solaris 10 9/10 OS のプロダクトノートを参照してください。

# XCP の既知の問題 (CR) と回避方法

この項では、重要な CR および推奨される回避方法 (存在する場合) を示します。

表 2-2 XCP に関する問題と回避方法

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
7009084	o	o	o	setpasswordpolicy -rが0に設定されている場合、既存の XCSF ユーザーはパスワードを変更できず、password: Operation failed というエラーメッセージが表示されます。	コマンドsetpasswordpolicy -r 0 を実行しないでください。 このコマンドの入力については、表 3-9 を参照してください。
7012224	o	o	o	OS のリポートまたはシャットダウン中に、次のようなメッセージがドメインコンソールに表示されることがあります。  Nov 30 16:56:36 sca-m5k-3-a ip: ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure); Source 192.168.224.001, Destination 192.168.224.002.  OS からのこのようなメッセージは単なる通知です。これらのメッセージは無視して差し支えありません。	アラームを無視してください。
7018644	o	o		ドメインまたは XSCF がリポートされるたびに、ドメインで REPAIRED/RESOLVED としてマークされた障害が XSCF に再送されます。XSCF が交換されない場合、これは問題ではなく、別の障害は発生しません。ただし、M4000/M5000 サーバの XSCF または M3000 サーバの MBU が交換される場合は、解決済みの問題に関して別の障害が発生することがあります。	XSCF または MBU が交換された後に別の障害が発生した場合は、fmdump -vの出力でsolaris -u uidを確認して、実際に障害かどうかを判断してください。
7020161	o			SPARC64 VII+ (2.86 GHz プロセッサ) 搭載の M3000 サーバで、Permitted AC power consumptionが 470W と表示されます。正しい値は 505W です。	回避方法はありません。





## 第 3 章

---

# ソフトウェアに関する情報

---

ここでは、Oracle Solaris ソフトウェアで発生する問題およびその回避方法について、この XCP ファームウェアリリースに関連するものを説明します。「[ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性マトリクス](#)」(P.2) も参照してください。

ご使用の本体装置には、出荷時に Oracle Solaris オペレーティングシステムおよび Java Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

---

## Capacity on Demand (COD)

XCP 1101 ファームウェアでは、Capacity on Demand (COD) 機能の新しいリリースが導入されます。最新バージョンの『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ Capacity on Demand (COD) ユーザーズガイド』を参照してください。

## COD に関する変更

新しいバージョンの COD で変更になった点は次のとおりです。

- Oracle E-Delivery 処理によって COD キーを取得するための簡素化された新しい処理が実装されます。COD データベースの旧式のキーは、新式のキーと共存して引き続き機能します。
- ロック解除された COD キー(本体装置の個別シャーシホスト ID に割り当てられておらず、他の本体装置にインストール可能な COD キー) がサポートされます。新しい COD キーには、*UNLOCKED* という語が含まれています。
- ヘッドルーム機能のサポートが終了します。ヘッドルームで動作している COD プロセッサがある場合は、ライセンス違反している分と同数の COD プロセッサをドメインからアンインストールする必要があります。または、購入しないまま使用

している COD リソース用に、CPU RTU ライセンスを購入してインストールする必要があります。次に `setcod 0` を実行してヘッドルームの数を 0 (ゼロ) に設定し、ドメインの電源を切断してからもう一度投入します。その後、許可された COD リソースだけがインストールされていることを確認します。

---

**注** - XCP 1100 ファームウェアリリースでは、`showcodactivationhistory(8)` コマンドのサポートが実装されます。このコマンドにより COD アクティベーション履歴の参照または転送が可能です。

---

## リモート初期ログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、M シリーズサーバは、`admin` と呼ばれる一時的なログインが可能な状態出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。`admin` ユーザーの権限は `useradm` 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 `admin` としてログインすることはできません。一時 `admin` アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーまたは一時 `admin` としてログインしたユーザーが、有効なパスワードと権限を持つ最初のユーザーを登録した後は、一時 `admin` アカウントは無効となります。

ログインアカウントの名前の詳細については、第 2 章の表 2-1 も参照してください。

## 障害管理

障害管理ソフトウェアは、SPARC64 VII+ プロセッサと SPARC64 VII プロセッサを区別します。`ereport` (エラーレポート) または `fault` (障害) イベントの文字列では、これらのプロセッサタイプは両方とも SPARC64 VII と表示されます。たとえば、次のような表示になります。

```
fault.chassis.SPARC-Enterprise.cpu.SPARC64-VII.core.ce
```

ただし、障害の FRU フィールドには正しい部品番号が格納されますので、プロセスタイプを識別できます。たとえば、次のとおりです。

```
XSCF> fmdump -v
Nov 19 00:58:18.6244 1147afbe-d006-4d46-8cf2-d9b6e5a893dc SCF-8007-AR
100% fault.chassis.SPARC-Enterprise.cpu.SPARC64-VII.way.ce

Problem in: hc:///chassis=0/cmu=1/cpu=0
Affects: hc:///chassis=0/cmu=1/cpu=0
FRU: hc://:product-id=SPARC Enterprise M8000:chassis-id=
2030638006:server-id=aaa-dcl-3-sf0:serial=PP1032026V:part=CA06620-D061 B1 \
371-4929-02:revision=0a01/component=/CMU#1/CPUM#0
Location: /CMU#1/CPUM#0
```

---

## システムの縮退メモリの識別

### ▼ システムの縮退メモリを識別するには

1. XSCF にログインします。
2. 次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showstatus
```

3. 次の例では、マザーボードユニットの DIMM 番号 0A でメモリが縮退したことがわかります。

```
XSCF> showstatus
MBU_A Status: Normal;
MEM#0A Status: Degraded
```

---

# Sun Java Enterprise System

Sun Java Enterprise System ソフトウェアは、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。このソフトウェアは、ご使用の本体装置で必須となるパッチを含んでいない場合があります。

---

**注** - Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題に対処するために、XSCF Web コンソール SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

---

---

## XSCF Web コンソール SMF サービスの有効化

### ▼ XSCF Web コンソール SMF サービスを有効にするには

- 端末に `root` としてログインし、サービスを有効にします。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://myoraclesupport.com>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用している本体装置に必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール後、必須パッチがすべてインストールされているかどうかを確認し、不足しているパッチがあればそれをインストールします。

# ソフトウェアの機能の問題と制限事項

この項では、このリリースのソフトウェア機能の問題と制限事項について説明します。

表 3-1 ソフトウェアの機能の問題と制限事項

M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	問題
○	○	○	setsnmp(8) コマンドおよび shownmp(8) コマンドが、許可の失敗をユーザーに通知しません。このような障害が発生した場合、SNMP トラップホストが動作していることを確認し、正しいユーザー名を使用してコマンドを再実行してください。
	○		消費電力を表示する次の機能は、M4000/M5000 サーバではサポートされません。表示される値はすべて無効です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• showenvironment(8) コマンドの power オペランド</li><li>• XSCF Web</li></ul>
○	○	○	settimezone -c adddst コマンドで、タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前を 8 文字以上で設定した場合、showlogs コマンドを実行するとセグメンテーションに失敗し、エラーが発生します (CR 6789066)。  回避方法: タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前は、7 文字以下で指定します。
○			M3000 サーバは PCI ボックスをサポートしていません。
○	○	○	SPARC64 VII+ (2.86 GHz) プロセッサ搭載の M3000 サーバでのみ、raidctl(1M) コマンドを使用して、オンボード SAS/LSI コントローラを利用するハードウェア RAID ボリュームを作成できます。 raidctl(1M) コマンドは、すべての M シリーズサーバで、ディスクおよびコントローラのステータスを表示するための使用がサポートされています。また、システムに取り付けられているすべての PCI ホストバスアダプター (HBA) を対象として使用できます。 RAID 作成に関する制限事項は、以前は CR 6723202 として指定されました。回避方法はあります。

# Oracle Solaris OS に関する問題 (CR) と回避方法

この項では、ドキュメントの発行時点で判明している Oracle Solaris OS に関する問題について説明します。次の各表に、Oracle Solaris OS で発生しうる問題を示します (一部、使用リリースによって異なります)。

## サポートされているすべての Oracle Solaris リリースに関する既知の問題

すべての Oracle Solaris リリースで発生しうる Oracle Solaris OS の問題を、表 3-2 に示します。ドメインが最新の Oracle Solaris リリースを実行していない場合は、使用中のリリースよりも新しいリリースで修正されている CR (以降の各表を参照) にも留意してください。

表 3-2 サポートされているすべての Solaris OS リリースに関する問題と回避方法 ( 1 / 3 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 4816837		o	o	中断状態で SP DR のパラレルホットプラグ操作を実行したときに、システムがハングします。	回避方法はありません。
CR 6459540		o	o	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバに接続された DAT72 内蔵テープドライブユニットが、テープの処理中にタイムアウトすることがあります。 また、デバイスがシステムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。  tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3;  SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には半角スペースが 4 つ必要です。
CR 6522017		o	o	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、当社技術員にお問い合わせください。

表 3-2 サポートされているすべての Solaris OS リリースに関する問題と回避方法 ( 2 / 3 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6531036	o	o	o	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されま す。	回避方法はありません。
CR 6532215	o	o	o	ドメインのブート時に volfs サービスや dscp サービスの起 動が失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を事 前に回避する場合は、以下のコマンドを実行し てください。 # svccfg -s dscp setprop \ start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop \ start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs
CR 6588650		o	o	バックアップ XSCF への XSCF フェイルオーバーまたはバック アップ XSCF からの XSCF フェ イルオーバーの後、 M4000/M5000/M8000/M9000 サーバの DR が不可能となる場 合があります。	回避方法はありません。
CR 6589644			o	addboard コマンドでシステム ボードが追加された後、 M8000/M9000 サーバ上で XSCF の切り替えが発生したと きに、コンソールが認識されな くなります。	コンソールを復旧させるには、Ctrl-q を押しま す。
CR 6592302		o	o	DR 操作が失敗すると、メモリ が一部未設定のままになりま す。	addboard -d コマンドを使用してボードをドメ インに戻し、復旧することができます。 復旧できない場合は、deleteboard(8) を再実 行してください。
CR 6611966		o	o	DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作が失敗する ことがあります。ドメインに表 示されるメッセージの例を次に 示します。 drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci	DR 操作を再実行してください。

表 3-2 サポートされているすべての Solaris OS リリースに関する問題と回避方法 ( 3 / 3 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6660168	o	o	o	「CR 6660168」(P.19) を参照してください。記述が長くなるため、この表には記載していません。	
CR 6674266		o	o		この CR は CR 6611966 と重複しています。
CR 6745410	o	o	o	システムをブートしないようにする Kadb オプションが、ブートプログラムで無視されます。	kadb の代わりに kmdb を使用してください。
CR 6794630	o	o	o	2TB よりも大きいドメインに GUI を使用して Oracle Solaris をインストールしようとすると、失敗する場合があります。	コマンドラインインターフェースを使用して Oracle Solaris OS をインストールしてください。
CR 7009469	o			raidctl(1M) コマンドを使用して RAID を作成すると、最初のプロセスで警告メッセージが生成されます。その後の RAID 構成でメッセージが生成されることはありません。	ありません。



## CR 6660168

ドメイン上で `ubc.piowbeue-cpu` エラーが発生すると Oracle Solaris Fault Management `cpumem-diagnosis` モジュールが失敗し、FMA サービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されま

```
SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor
EVENT-TIME: Fri Apr  4 21:41:57 PDT 2008
PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002,
HOSTNAME: <hostname>
SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0
EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3
DESC: A Oracle Solaris Fault Manager component has experienced
an error that required the module to be disabled. Refer to
http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information.
AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events
destined for the module will be saved for manual diagnosis.
IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events
associated with this module will not occur.
REC-ACTION: Use fmdump -v -u <EVENT-ID> to locate the module. Use
fmadm reset <module> to reset the module.
```

回避方法 : `fmd` サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。

```
# svcadm clear fmd
```

その後、`cpumem-diagnosis` を再起動します。

```
# fmadm restart cpumem-diagnosis
```

## Oracle Solaris 10 9/10 で修正された問題

表 3-3 に、Oracle Solaris 10 9/10 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-3 Oracle Solaris 10 9/10 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M4000/ M5000	説明	回避方法
CR 6888928	o	o	o	IPMP インターフェースで、プローブパケットがそのインターフェースを通じて送信されていない場合に問題が発生します。問題が発生するのは、M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 です。この問題は、Oracle Solaris 10 10/09 OS および IPMP を実行しているサーバ、または IPMP を実行しパッチ 141444-09 がインストールされたいずれかの Oracle Solaris リリースで確認されています。	プローブベースの障害検出を無効にします。『IPMP Link-based Only Failure Detection with Solaris 10 Operating System (OS)』(Doc ID 1008064.1) を参照してください。
CR 6668237	o	o	o	DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。	<code>fmadm repair <i>fmri</i> <i>uuid</i></code> を使用して、修復を記録します。次に、 <code>fmadm rotate</code> コマンドを使用して残存イベントをすべて消去します。
CR 6872501	o	o	o	XSCF によって要求された場合、コアがオフラインになりません。この CR の影響を受けるのは、Oracle Solaris 10 5/09 リリースおよび Oracle Solaris 10 10/09 リリースのみです。	サービスプロセッサ上で、 <code>-v</code> オプションを指定して <code>fmdump(1M)</code> を使用し、障害のあるコアを識別します。識別した後、ドメインで <code>psradm(8)</code> を使用してコアをオフラインにします。

# Oracle Solaris 10 10/09 で修正された問題

表 3-4 に、Oracle Solaris 10 10/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-4 Oracle Solaris 10 10/09 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 1 / 2 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M4000/ M5000	説明	回避方法
CR 6572827	o	o	o	prtdiag -v コマンドで PCI バスのタイプが間違っ て出力されます。PCI-X リーフデバイスが「PCI」、レガシー PCI デバイスが「UNKN」と表示されます。	回避方法はありませ ません。
CR 6724307			o	スケジューラの決定が不均 衡になる場合があります。あるコア上に 2 つのスレ ッド（両方ともほぼ半分の速度で動作します）が存在し、同時に別のコアがアイドルになっ ていることがあります。多くの OpenMP および類似のパラレルアプ リケーションでは、アプリケーションの パフォーマンスが、最も遅いスレ ッドの速度に制限されます。不均 衡なスケジューリングは一般的で はありません（50 の決定に 1 つまたは 100 の決定に 1 つ程度になると考えら れます）。ただし、128 のスレ ッドが動作している場合、アプリケーションに は不均 衡なスケジューリングイベントが 1 つ以上存在する可能性があります。	プロセッサセットを使用し て、コア割り当てに対する不均 衡なスレ ッドを防止してくださ い。
CR 6800734		o	o	ドメインで deleteboard がハン グしま す。	回避方法はありませ ません。
CR 6816913		o	o	XSCF の showdevices コマンドで、小 数点演算プロセッサのキャッシュサイ ズに誤った値が表示されます。たと えば、正しい表示が「5.5MB」となる 場合に「5MB」と表示されます。	プロセッサの情報を出力す るには、ドメインに対して prtdiag(1M) コマンドを使用 してください。
CR 6821108		o	o	DR および showdevices が、XSCF の リポ ート後に動作しません。	XSCF サービスプロセッサを 2 回リポ ートします。最初のリポ ートで SA の半数が削除さ れ、2 回目で残りの半数が削除 されます。2 回目のリポ ートが 成功して、IPSec 通信が再確立 されます。

表 3-4 Oracle Solaris 10 10/09 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 2 / 2 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M4000/ M5000	説明	回避方法
CR 6827340	o	o	o	SCF コマンドのエラーによって、DR およびメモリ巡回に失敗することがあります。	回避方法はありません。

## Oracle Solaris 10 5/09 で修正された問題

表 3-5 に、Oracle Solaris 10 5/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-5 Oracle Solaris 10 5/09 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M4000/ M5000	説明	回避方法
CR 6588555		o	o	カーネルメモリで DR 操作中に XSCF をリセットすると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 操作の進行中は、XSCF リセットを起動しないでください。DR 操作が完了するのを待ってから、リセットを開始します。
CR 6623226	o	o	o	Oracle Solaris コマンドの lockstat(1M) や dtrace lockstat provider で、システムパニックが発生することがあります。	Oracle Solaris の lockstat(1M) コマンドおよび dtrace lockstat provider を使用しないでください。
CR 6680733	o	o	o	負荷が高い状況で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NIC がパニックすることがあります。	可能な場合は、カードを x8 スロットで使用します。このように構成できない場合、回避方法ははありません。
CR 6689757	o	o	o	単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	両方の XFP 光トランシーバが筐体にしつかりと装着されていることを確認してください。 INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。 ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfig コマンドでポートを精査しないでください。
CR 6725885	o			cfgadm を使用すると、存在しない M3000 システムボード (SB1 ~ SB15) が表示されます。	SB1 ~ SB15 に関する cfgadm の出力は無視できます。

# Oracle Solaris 10 10/08 で修正された問題

表 3-6 に、Oracle Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-6 Oracle Solaris 10 10/08 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 1 / 4 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6511374		o	o	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムのリポート後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。
CR 6533686		o	o	XSCF でシステムリソースが不足している場合、カーネルメモリを移動する DR deleteboard または moveboard 操作が、次に示す 1 つ以上のエラーで失敗することがあります。 SCF busy DR parallel copy timeout この問題が発生するのは、マルチドメインのホストである Quad-XSB 構成のシステムボードだけです。	後で、DR 操作を再実行してください。
CR 6535018			o	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Oracle Solaris ドメインでは、スレッド数を 256 超の値に増やしても、Oracle Solaris カーネルの使用負荷が予想どおりに上がらないことがあります。	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Oracle Solaris ドメインでは、ドメインを最大 256 スレッドに制限してください。
CR 6556742	o	o	o	DR 時に DiskSuite が metadb を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2FC-QF4 (4Gb PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBA)</li> <li>• SG-XPCIE1FC-QF4 (4Gb PCI-e Single-Port Fiber Channel HBA)</li> <li>• SG-XPCI2FC-QF4 (4Gb PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBA)</li> <li>• SG-XPCI1FC-QF4 (4Gb PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA)</li> </ul>	metadb の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。

表 3-6 Oracle Solaris 10 10/08 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 2 / 4 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6589833	o	o		<p>SAP プロセスが Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとすると、DR addboard コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状況で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	回避方法はありません。
CR 6608404	o	o		<p>X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カード) をスロット 1 にホットプラグすると、他のネットワークデバイスが動作しなくなる場合があります。</p>	この障害を回避するには、このカードをスロット 1 に取り付けないでください。
CR 6614737	o	o		<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングすることがあります。</p> <p>DIMM が縮退している。</p> <p>ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっている。</p>	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR 操作を実行しないようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 縮退メモリ - システムに縮退メモリが含まれているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showstatus を使用します。</li> <li>• 異なるメモリサイズ - ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showdevices またはドメインで prtdiag コマンドを使用してメモリサイズのリストを表示します。</li> </ul> <p>DR コマンドがハングした場合は、復旧させるためにドメインをリブートしてください。</p>

表 3-6 Oracle Solaris 10 10/08 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 3 / 4 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6619224			o	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Oracle Solaris ドメインでは、256 スレッド以上のシングルドメインが、一定の異常状態で長期間にわたってハングすることがあります。復旧時に、uptime コマンドは極端に高い負荷平均を示します。	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Oracle Solaris ドメインでは、シングル Oracle Solaris ドメインで 256 の仮想プロセッサのドメインサイズを超過しないようにしてください。つまり、シングルドメイン構成で最大 32 CPU になります (M8000 サーバの最大構成)。
CR 6632549		o	o	ドメインでの fmd service が、DR 操作後に保守モードの開始に失敗することがあります。	ドメインで次のコマンドを実行します。 # svcadm clear fmd
CR 6660197		o	o	次のいずれかの状況が存在する場合、DR によってドメインがハングすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ドメインに 256 以上の CPU が含まれている。</li> <li>メモリエラーが発生し、DIMM が縮退している。</li> </ul>	1. 次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。 set drmach:drmach_disable_mcopy=1 2. ドメインをリブートしてください。
CR 6679370		o	o	システムのブート中、ホットプラグを使用した PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。 SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ...DESC: A problem was detected in the PCIExpress subsystem.	/etc/system ファイルに次の行を追加し、ドメインをリブートしてください。 set pcie_expected_ce_mask = 0x2001
CR 6720261	o	o	o	ドメインが Oracle Solaris 10 5/08 OS を実行している場合、通常の操作中にシステムがパニックまたはトラップすることがあります。	次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。 set heaplp_use_stlb=0 その後、ドメインをリブートしてください。



表 3-6 Oracle Solaris 10 10/08 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 4 / 4 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6737039	o			<p>M3000 サーバの WAN ブートが、ブートプロセス初期段階のパニックによって失敗することがあります。出力の例を次に示します。</p> <pre> ERROR: Last Trap: Fast Data Access MMU Miss %TL:1 %TT:68 %TPC:13aacc %TnPC:13aad0 %TSTATE:1605 %PSTATE:16 ( IE:1 PRIV:1 PEF:1 ) DSFSR:4280804b ( FV:1 OW:1 PR:1 E:1 TM:1 ASI:80 NC:1 BERR:1 ) DSFAR:fda6f000 DSFPAR:401020827000 D- TAG:6365206f66206000 </pre>	<p>本体装置の電源を切断し、もう一度投入した後、操作を再試行してください。</p>

# Oracle Solaris 10 5/08 で修正された問題

表 3-7 に、Oracle Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-7 Oracle Solaris 10 5/08 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 1 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 5076574			o	大規模な M8000/M9000 ドメインでは、PCIe エラーが発生すると障害診断が無効になるおそれがあります。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
CR 6348554	o		o	以下のカードで <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハングするおそれがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SG-XPCIE2FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA)</li> <li>SG-XPCIE1FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA)</li> <li>SG-XPCI2FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-X HBA)</li> <li>SG-XPCI1FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-X HBA)</li> </ul>	影響のあるカードでは、 <code>cfgadm -c disconnect</code> 操作を実行しないでください。
CR 6402328			o	1つのドメイン内で6つを超える IOUA カード (基本 I/O カード) を使用すると、I/O 負荷が高いときにパニックが発生することがあります。	1つのドメイン内の IOUA の数は、最大で6つまでに制限してください。
CR 6472153	o		o	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ以外の sun4u サーバ上に Oracle Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それをこれらのサーバのいずれかにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。	Oracle Solaris フラッシュアーカイブから Oracle Solaris OS をインストールした直後に M4000/M5000/M8000/M9000 サーバに <code>telnet</code> で入り、コンソールの TTY フラグを以下のようにリセットします。 # sttydefsg -r console # sttydefsg -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"  この作業は1回だけ実行してください。

表 3-7 Oracle Solaris 10 5/08 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 2 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6505921			o	システム PCIe バスコントローラの修正可能なエラーによって、無効な障害が発生します。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
CR 6522433			o	リブート後の CPU 障害によって、fmdump が正しいマザーボードを識別できないことがあります。	XSCF のシステムステータスを確認してください。
CR 6527811			o	XSCF 上で showhardconf(8) コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが設定されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。	回避方法はありませぬ。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。
CR 6536564			o	showlogs(8) および showstatus(8) コマンドが、別の I/O コンポーネントを報告することがあります。	この問題を事前に回避する場合は、ドメインで以下のコマンドを実行してください。 # cd /usr/platform/SUNW,SPARCEnterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd  次のメッセージが表示された場合は、当社技術員までご連絡ください。 SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor, EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc
CR 6545143			o	ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックがまれに発生することがあります。この問題は、フラッシュウィンドウトラップ (ta 3) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。 bad kernel MMU trap at TL 2	回避方法はありませぬ。

表 3-7 Oracle Solaris 10 5/08 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 3 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6545685		o	o	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。	/etc/system で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします。 set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000
CR 6546188		o	o	以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) および DR 操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムがパニックします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	回避方法はありません。
CR 6551356		o	o	未設定のカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「警告: PCI 拡張 ROM にアクセスできません」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこのバグの影響を受けます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	カードを完全に取り外すには、cfgadm -c disconnect を使用します。10 秒以上待ってから、cfgadm -c configure コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができます。
CR 6559504		o	o	以下のカードを使用すると、nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn という形式のメッセージがコンソールに表示されます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	これらのメッセージは無視して差し支えありません。

表 3-7 Oracle Solaris 10 5/08 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 4 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6563785		o	o	<p>以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2SCSIU320Z (Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA)</li> <li>• SGXPCI2SCSILM320-Z (Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA)</li> </ul>	カードを切断した後、数秒待ってから再接続してください。
CR 6564934		o	o	<p>以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対して DR deleteboard 操作を実行すると、接続が切れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順についての詳細は、ifconfig のマニュアルページを参照してください。
CR 6568417		o	o	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	/etc/system に次の行を追加し、システムをリポートしてください。 set ip:ip_soft_rings_cnt=0
CR 6571370		o	o	<p>実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	/etc/system に次の行を追加し、システムをリポートしてください。 set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0
CR 6584984			o	<p>-w を指定して busstat(1M) コマンドを実行すると、M8000/M9000 サーバドメインがリポートされることがあります。</p>	回避方法はありません。-w オプションを指定して busstat(1M) コマンドを pcmu_p で実行しないでください。

表 3-7 Oracle Solaris 10 5/08 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 5 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6589546	o	o		prtdiag は、次のカードのすべての I/O デバイスを表示するわけではありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SG-XPCIE2FC-EM4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA)</li> <li>SG-XPCIE1FC-EM4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA)</li> </ul>	完全出力には prtdiag -v を使用してください。
CR 6663570	o	o		番号の一番小さい CPU が DR 操作に係っている場合、ドメインがパニックすることがあります。	CPU ID が最も小さい CPU をホストしているシステムボードは、DR を使用して削除しないでください。CPU ID が最も小さい CPU を識別するには、Oracle Solaris の prtdiag コマンドを使用します。

## Oracle Solaris 10 8/07 で修正された問題

表 3-8 に、Oracle Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-8 Oracle Solaris 10 8/07 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 1 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6303418			o	シングルドメインで 11 以上のフル実装システムボードを備える M9000 サーバは、負荷が高い状況でハングすることがあります。	CPU スレッドの数が 170 を超えないようにしてください。 Oracle Solaris psradm コマンドを使用して過剰な CPU スレッドを無効にして、CPU スレッドの数を CPU コアあたり 1 つに制限してください。たとえば、奇数の CPU スレッドをすべて無効にします。
CR 6416224	o	o		単一の NIC カードの接続数が 5,000 を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	複数の NIC カードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
CR 6441349	o	o		I/O エラーでシステムがハングすることがあります。	回避方法はありません。

表 3-8 Oracle Solaris 10 8/07 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 2 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6485555	o	o	o	レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAM に障害が発生することがあります。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	回避方法はありません。
CR 6496337	o	o	o	修正不能なエラー (UE) パニックの発生後、「cpumem-diagnosis」モジュールのロードが失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、このモジュールを使用する FMA によって通常は自動診断されるイベントが手動診断を要求します。 例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ffem7-d0	問題がすでに発生している場合は、次の回避方法に従います。 1. cpumemdiagnosis ファイルを削除してください。 # <b>rm /var/fm/fmd/ckpt \ /cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis</b> 2. fmd サービスを再起動してください。 # <b>svcadm restart fmd</b>  この問題を事前に回避するには、 /lib/svc/method/svc-dumpadm ファイルに次の行を追加してください。  # savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis \ /cpumem-diagnosis #
CR 6495303	o	o	o	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの IOU スロット 1 で使用すると、システムパニックが発生することがあります。	このカードを IOU スロット 1 で使用しないでください。
CR 6498283	o	o	o	ドメインで psradm 操作の実行中に、DR deleteboard コマンドを使用すると、システムパニックが発生することがあります。	回避方法はありません。

表 3-8 Oracle Solaris 10 8/07 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 3 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6499304	o	o		<p>予期しないメッセージがコンソールに表示され、修正可能なエラー (CE) が多数発生しても CPU はオフラインになりません。</p> <p>例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007, PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	XSCF の CPU ステータスを確認してください。
CR 6502204	o	o		<p>CPU UE パニックの発生後のブート時に、予期しないエラーメッセージがコンソールに表示されることがあります。</p> <p>例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1- 16-d0</p>	予期しないメッセージが表示された場合は、showdomainstatus(8) コマンドを使用して、XSCF のシステムステータスを確認してください。
CR 650275	o	o		<p>増設または減設されたホットプラグの PCI カードが通知メッセージを出力しないことがあります。</p>	回避方法はありません。
CR 6508432	o	o		<p>PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーログに多数記録されることがあります。</p>	<p>これらのエラーをマスクするには、次のエントリを /etc/system に追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre>
CR 6508434	o			<p>PCI ホットプラグを使用して PCI-X カードを増設または交換すると、ドメインがパニックすることがあります。</p>	PCI ホットプラグを使用して、異なるタイプの PCI-X カードを同じ PCI スロットに増設しないでください。
CR 6510861	o	o		<p>PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Oracle Solaris のパニックが発生します。</p>	<p>この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください。</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</pre>



表 3-8 Oracle Solaris 10 8/07 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 4 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6520990	o	o		ドメインがリブートしたとき、SCF が同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR 操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。	次の記述を /etc/system に設定して DR タイムアウト時間を大きくし、システムをリブートします。 set drmach:fmem_timeout = 30
CR 6527781			o	2 つのドメイン間で DVD/DAT ドライブを移動中に、cfgadm コマンドが失敗します。	回避方法はありません。DVD/ テープドライブユニットを再構成するには、問題が発生しているドメインから reboot -r を実行してください。
CR 6530178	o	o		DR addboard コマンドがハングすることがあります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインのリポートが必要です。	回避方法はありません。
CR 6530288	o	o		cfgadm(1M) コマンドが Ap_Id フォーマットを正しく表示しないことがあります。	回避方法はありません。
CR 6534471	o	o		通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	パッチが入手可能でない場合は、カーネルの大きなページの sTLB プログラミングを無効にしてください。 /etc/system ファイルで、heaplp_use_stlb 変数を 0 に変更してください。 set heaplp_use_stlb=0
CR 6535564	o	o		DR によって追加された XSB で、PCI スロット #0、#1、または PCI ボックスに対する PCI ホットプラグが失敗することがあります。	XSB の PCI カードを増設または減設する必要がある場合は、PCI ホットプラグの代わりに DR を使用してください。
CR 6539084	o	o		ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合、リブート中にドメインのパニックがまれに発生することがあります。	回避方法はありません。
CR 6539909	o	o		boot net install コマンドを使用して Oracle Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z/X4447A-Z (PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z/X1027A-Z (PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP)</li> </ul>	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Oracle Solaris OS をインストールしてください。

表 3-8 Oracle Solaris 10 8/07 で修正された Oracle Solaris OS の問題と回避方法 ( 5 / 5 )

CR ID	M3000	M4000/ M5000	M8000/ M9000	説明	回避方法
CR 6542632	○	○		ドライバ接続に失敗すると、PCIe モジュールにメモリリークが発生します。	回避方法はありません。

# ソフトウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントセットが発行された後に知られるようになった最新情報、またはごく最近に追加された最新情報を示します。

**注** - オンラインのマニュアルページは、通常では『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』よりも頻繁に改訂されます。内容に矛盾がある場合は、マニュアルページ下部の最終修正日付を確認してください。

表 3-9 マニュアルページの変更内容

マニュアルページ	変更内容
addcodactivation(8)、 setcod(8)、showcod(8)、 showcodusage(8)	これらのマニュアルページには COD ヘッドルーム機能に関する記述が残っていますが、この機能はもうサポートされていません。 「 <a href="#">Capacity on Demand (COD)</a> 」(P.11) を参照してください。
showenvironment(8)	XCP 1100 ファームウェアリリースでは、M4000/M5000 サーバでの showenvironment air コマンドのサポートが実装されました。現在は、すべての M シリーズサーバでこのコマンドを使用できます。
setpasswordpolicy(8)	-r remember オプションの詳細は次のとおりです。 パスワード履歴に保持されるパスワード数を設定します。有効な値は 1 ~ 10 の整数です。初期設定は 3 です。値 0 はサポートされておらず、ユーザーがパスワードを修正できなくなります。

表 3-10 マニュアルの変更内容

ドキュメントタイトル	変更内容
『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ Capacity on Demand (COD) ユーザーズガイド』	このドキュメントでは、XCP 1101 ファームウェアにアップグレードする前にヘッドルームの数を 0 (ゼロ) に設定する必要があることについて、まだ説明していません。「 <a href="#">Capacity on Demand (COD)</a> 」(P.11) を参照してください。



## 第 4 章

---

# ハードウェアに関する情報

---

ここでは、この XCP リリースに関連する M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバハードウェアの問題について説明します。

「ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性マトリクス」(P.2) も参照してください。

---

## 特記事項、問題、および回避方法 – M シリーズサーバすべて

### WAN ブートサーバからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバから M4000/M5000 サーバをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル wanboot をインストールし、OpenBoot バージョン 4.24.10 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバの詳細については、使用している Oracle Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Oracle Solaris 10 OS のドキュメントは次のウェブサイトにあります。

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/index.html>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、本体装置でパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

## 単一の J4200 JBOD ストレージアレイからの複数のシステムのブート

Sun Storage J4200 SAS JBOD アレイは、6つの汎用 SAS コネクタを備えています。ファームウェアバージョン 3A32 以降では、各コネクタをそれぞれ別の SAS イニシエーターに接続することによって、最大で 6 台のシステムをアレイに接続できます。各システムは、アレイ上のそれぞれ異なるディスクをブートデバイスとして使用できます。J4200 のアレイは 12 台のディスクを搭載しているため、各ブートデバイスをミラー化することで信頼性を向上できます。J4200 アレイを複数のゾーンに分割するように設定すると、さらにセキュリティの高い環境を構築できます。

詳細については、次のウェブサイトにある Sun StorageTek Common Array Manager のソフトウェアドキュメントを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/disk-device-194280.html#hic>

次のドキュメントを参照してください。

- 『Sun StorageTek Common Array Manager ソフトウェアリリースノート 6.4.1』
- 『Sun StorageTek Common Array Manager ユーザーズガイドオープンシステム用』

## USB メモリを使用する場合の注意

データの保存先に USB メモリを指定して `dumpconfig(8)`、`restoreconfig(8)`、または `snapshot(8)` コマンドを実行するには、USB メモリをメディアとしてあらかじめ準備しておきます。

保存されるデータには、システムに関する情報が含まれています。USB メモリを使用するには、データセキュリティの観点から、データの保存先となる USB メモリの管理に注意を払う必要があります。

現在流通しているあらゆる USB メモリが正常に動作し、XSCF に接続できるかどうかについては、保証できません。使用している USB メモリによっては、XSCF ファームウェアエラーやリセットなどの障害が発生することがあります。このような障害が発生した場合は、ただちに USB メモリの使用を中止してください。

USB メモリを XSCF の USB ポートに接続するには、USB メモリを USB ポートに直接接続します。USB ハブまたは USB 拡張機器を介して接続した場合、エラーが発生することがあります。

## ハードウェアの機能の問題と制限事項

この項では、このリリースですでに判明している問題について説明します。

- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
- OS パニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (\*CPUN/RTNU)
- 本体装置ハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常) (\*ALARM)
- ドメインでサポートされるカードの数など、I/O オプションおよびストレージについては、次の Sun Cross Platform IO Support ページを参照してください。

<http://wikis.sun.com/display/PlatformIoSupport/Home/>

---

## 特記事項、問題、および回避方法 – M3000 サーバのみ

### Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-27 で提供されるドライバが必要です。

- XSEFC402AF (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA)
- XSEFC401AF (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIeHBA)

## ハードウェアの機能の問題と制限事項

この項では、このリリースですでに判明している問題について説明します。

- 電源切断後の電源投入では、30 秒以上待機した後、メインラインスイッチまたは分電盤のサーキットブレーカーを使用してシステムの電源を再投入してください。

- B タイプのプラグを持つ本体装置の場合、15A の過電流保護デバイスが本体装置外にあることを確認します。このデバイスがない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) またはヒューズなど、15A の過電流保護を外部で実施できる手段を準備します。B タイププラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、および L5-15などを指します。
- SAS ターゲットが複数含まれる SAS デバイスをオンボードの外部 SAP インターフェースに接続することは、サポートされません。代わりに、Sun StorageTek ホストバスアダプター (SG-XPcie8SAS-E-Z) を使用してください。

---

## 特記事項、問題、および回避方法 – M4000/M5000 サーバおよび M8000/M9000 サーバのみ

### DVD ドライブと `cfgadm`

Oracle Solaris の `cfgadm(1M)` コマンドを実行しても、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ上のドメインから DVD ドライブが構成解除されない場合があります。

Volume Management Daemon (`vold`) を無効にしてから、`cfgadm(1M)` コマンドを使用して DVD ドライブを構成解除してください。`vold` を無効にするには、コマンド `/etc/init.d/volmgt stop` を実行してデーモンを停止します。デバイスを減設または増設してから、コマンド `/etc/init.d/volmgt start` を実行してデーモンを再起動します。

### F20 PCIe カード

このリリースでは、M4000/M5000 サーバおよび M8000/M9000 サーバ上で Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードがサポートされます。これらのカードは、M3000 サーバではサポートされません。

M4000/M5000 サーバの場合、F20 カードを設定するのはスロット 1 および 3 のみにしてください。この制限事項は、M8000/M9000 サーバには適用されません。

詳細については、F20 に関する次のドキュメントを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/index.html>



---

**注** - PCI ボックスは F20 カードをサポートしていません。

---

## Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。このバージョンは使用しないでください。

## U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード（部品番号 375-3357-01/02）は、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの PCI カセットではサポートされていません。部品番号 375-3357-03 以降を使用する必要があります。

## QLogic PCIe カードのパッチ

次に示す QLogic カードは、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA（部品番号 SG-XPCIE2FC-QF4）
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIe HBA（部品番号 SG-XPCIE1FC-QF4）

## Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-27 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA（部品番号 SG-XPCIE2FC-EM4）
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIe HBA（部品番号 SG-XPCIE1FC-EM4）

## ハードウェアの機能の問題と制限事項

この項では、このリリースですでに判明している問題について説明します。

- PCI ボックスを使用してホストサーバを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
- 電源コードは、二系統受電機構なしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。すべての電源コードは常時接続され、電源投入されていなければなりません。
- 活性交換のために `addfru(8)` コマンドまたは `replacefru(8)` コマンドが使用された後、M8000/M9000 サーバ上で DR 操作が失敗することがあります。DR のために使用できないボードに関する誤ったメッセージが表示されます。保守メニューで診断テストを実行せずに活性交換を行うと、この問題が発生します。この問題を回避するには、`addfru(8)` コマンドまたは `replacefru(8)` コマンドの保守メニューで診断を実行してください。復旧には、`testsb(8)` コマンドを実行するか、`deletefru(8)` コマンドで CPU/ メモリボードユニットを削除してから `addfru(8)` コマンドを再実行してください。
- テープドライブユニットのオプションについては、営業担当員にお問い合わせください。
- M4000/M5000 サーバは、停止保守が必要な機器です。CPU モジュール (CPUM)、メモリボード (MEMB)、I/O ユニット (IOU)、および XSCF ユニットのホットスワップはサポートされません。

---

## M3000 サーバのハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、M3000 サーバハードウェアのドキュメントセットが発行された後に知られるようになったハードウェア最新情報および変更内容を示します。

M3000 のハードウェアドキュメントはすべて、このリリースの時点で最新です。

---

## M4000/M5000 サーバのハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、M4000/M5000 サーバハードウェアのドキュメントセットが発行された後に知られるようになったハードウェア最新情報および変更内容を示します。

M4000/M5000 のハードウェアドキュメントはすべて、このリリースの時点で最新です。

---

## M8000/M9000 サーバのハードウェアドキュメントの変更予定

ここでは、M8000/M9000 サーバハードウェアのドキュメントセットが発行された後に知られるようになったハードウェア最新情報および変更内容を示します。

M8000/M9000 のハードウェアドキュメントはすべて、このリリースの時点で最新です。

